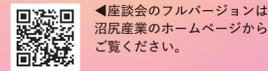


どう描く、つくばの未来。

今年4月、「スーパーシティ型国家戦略特別区域」に指定されたつくば市。

先端技術を活用した地域課題の解決と、より快適で豊かな市民生活の実現を目指し、そのための大胆な規制緩和にも期待が高まる。今回の座談会は、そんな今こそ、つくばの未来を語りたいと、つくば生まれの物流会社、沼尻産業社長の沼尻年正さんのお声掛けにより実現した。パネリストは、沼尻社長に加え、つくば市への熱い思いを持つ3人、つくば市長の五十嵐立青さん、茨城県議会議員の鈴木将さん、筑波大学院生の長谷澤未来さん。(聞き手:柴田敦茨城新聞社土浦・つくば支社長)



座談会のフルバージョンは沼尻産業のホームページからご覧ください。

まちづくりの方向性 つながりを力に未来をつくる

——つくば市の魅力や未来像をテーマにお話いただけます。まちづくりの方向性についてお考えをお聞かせください。

五十嵐 市には「未来構想」というものがあります。まちづくりの指針となる最上位の計画であり、羅針盤です。そこでは、「つながりを力に未来をつくる」を大きな理念としています。さらに、その具現化のための方策を示した「戦略プラン」があります。それは、市が大事にしている持続可能都市という目標を織り込みながら、市民との対話集会や有識者による審議会、未来を担う若手職員たちなど、本当に多様な人たちの議論を尽くした集大成になります。

まずは、行政自らがプレーヤーになろうと、真正面向き合い実現したことのひとつに、「つくばまちなかデザイン株式会社」の設立があります。中心市街地活性化のための拠点としてエリアマネジメントをするまちづくり会社です。沼尻産業さん、関彰商事さん、LIGHTzさんに投資をしていただきました。今年5月には、同社運営管理による、多様な働き方を支援する拠点、「co-en」(コーエン)がオープンしました。今、座談会を開いている、まさにこの場所です。共有オフィスやカフェが整備され、市民の方々からも好評価をいただき、うれしいことに、共有オフィスは満室となっています。

鈴木 私は、観光資源としての筑波山のポテンシャルに注目し取り組んでいます。2019年に、第1回の「ナショナルサイクルート」に指定された「つくば霞ヶ浦りんりんロード」を皮切りにハード整備を行い、さまざまなソフト事業への評価も高まってきました。現在は、競技レベルの方々ばかりではなく、観光、そして地元一般の皆さんにも

ご利用いただけるようになっていきます。つくばには、そんな中心市街地では得られない魅力ある環境が、すぐそこにあるということを再認識し、既存資源への新しい価値創造も大きな方向性のひとつだと考えます。



HASEZAWA MIKU
2歳から22年、生粋のつくばっ子です。つくばは、そんな中心市街地では得られない魅力ある環境が、すぐそこにあるということを感じています。つくばは、そんな中心市街地では得られない魅力ある環境が、すぐそこにあるということを感じています。

長谷澤 つくばの良いところはやっぱり平和に過ごせることでしょうか。地味ですが大切なことだと思います。学生街のような筑波大周辺は、本当に伸び伸びと暮らせます。ただ、そこで生活が完結できるという利便性の一方、車があるかないか、そのことが、生活や楽しみ方に大きな差となってあらわれています。学生街から出られるか出られないかがとても大きいのです。東京にすぐに行ってしまうという立地の良さが、逆に市内への興味を薄めている部分もあるとは思いますが。

企業にとっての可能性と発展性 つくば市のポテンシャル

——沼尻社長に伺います。企業がつくば市にあることの優位性や可能性を教えてください。

沼尻 弊社は祖父と父の代の1962年につくばで創業し、最初は秋葉原の市場に野菜を運んでいました。以来60年、住宅建材や精密機械、食品、医薬品やアパレルなど、扱ひ品目は多岐にわたり、現在は27拠点、社員数400名の企業規模になりました。これは何よりもつくばという、物流拠点としての立地の優位性がとても大きかったと思っています。圏央道が開通し、茨城と千葉、埼玉、東京、神奈川がつながりました。それによって東関東、常磐、東北、関越、中央、東名と6つの高速道路と接合して、時間的距離がものすごく縮まりましたよね。このことによるつくばの優位性は、今後ますます高まるでしょうね。

五十嵐 沼尻産業さんには、かねてからの雇用面での貢献に加え、最近では、市のコロナワクチン配送でも物流の力をお借りしています。チームを組んで緻密に運用していただいたお陰で接種が順調に進みました。

沼尻 今回の機会は弊社にとっても大変貴重な経験です。また、市長が仰った、「つくばまちなかデザイン」への出資や、人材出向などを通じて、新しい学びの機会をいただき、物流を超えたビジネスへの模索もはじまっています。そんな市の取り組みを応援したいのは弊社だけではないはずですし、多くの地元企業の方々との横の繋がりを生むことも、今後のつくばの可能性をより高めることとなります。

はじまる社会実装 未来のまち、スーパーシティ

——つくば市は「スーパーシティ」に選ばれ、「未来のまち」への取り組みがスタートします。

五十嵐 これは国による特区制度で、つくばと大阪が選ばれました。規制を緩和して、さまざまな新技術によって市民生活の課題を解決し、より幸せな暮らしのためにできることを選択肢を増やすことを目指しています。行政手続きや医療、教育、防災など、もちろん移動や物流も、あらゆる分野で先端的なサービスの実装に向けて取り組みを進めていきます。

長谷澤さんが仰った周辺地域への移動問題も、自動走行モビリティなどが解決していくかもしれません。

鈴木 国が提唱する「ソサエティ5.0」の一環として「スーパーシティ」の指定を受けたことは、たいへん名誉なこと。日本の技術をしっかり伸ばしていく、そのリーダーとして、今回つくばが選ばれたということですから、同時に責任も大きく、「スーパーシティ」という名に値するまちづくりを実現しなければなりません。そのため、取得データの取り扱ひなどの新しい課題に対しても、多方面の理解と合意形成を図っていくことも肝要です。

長谷澤 子どもの頃から「科学のまちつくば」と刷り込まれてきましたので、「スーパーシティ」ぐらいのことはやってきて当然だと考えています。生活がすごく豊かになるのかなど大きな期待はありますが、構想の対象が、高齢者や子育て世代中心に見える懸念があります。学生の関心の低さも問題なのですが、彼らや私たちが巻き込んでいけるような伝え方や工夫があったらいいですね。

沼尻 買い物困難者のための移動スーパーであるとか、他地域に先駆けてドローン配送が可能になるでしょうから、今からしっかり経験と知見を積んでおきたいです。将来は地元企業が増えることが多く参画していただきたいですし、大手との連携などにも期待します。そのための座組みなどが重要なので、私自身も尽力したいですね。

持続可能な都市とは？ 枠を超える、横断的な取り組み

——つくば市の未来像について、どのように考えておられるでしょうか。

五十嵐 私が一番大事にしているのは、どのような未来像であれ、市民と「ともに創る」ということです。これまでのまちづくりにおける、つくばのターニングポイントは、研究学園都市整備、科学万博、つくばエクスプレス開業など、いずれも主体は、基本的に国や外の組織でした。ですが、ここから先は自分たちの足で歩いていかなきゃいけない。鈴木県議のような方のお



沼尻産業株式会社 代表取締役社長 沼尻 年正
1968年、谷田部町生まれ。つくば発の物流企業社長。創業60年を迎え、3代続いたつくば。かつての田園風景から想像を超える発展を遂げた現在のつくば。そんなまちの発展とともに事業も成長させてもらってきたという地域への熱い思いがある。つくばらしい発展とはなにか。さらなる地域貢献を通じて、一緒に成長していきたい。

力をお借りして県とも調整をしながら、地域をリードする沼尻産業さんをはじめとした多くの民間企業と連携し、長谷澤さんのような未来を担う学生の皆さんにも参加していただきながら、みんなでつくばのまちの力を高めていきたいと思っています。

鈴木 毎年のように新しい拠点を生んでいる沼尻産業さんは、物流の枠を超えて企業サプライチェーンの一翼を担っていますよね。行政や政治もこれにならって、これまでの枠を超えた横断的な思考や取り組みが必要です。

最先端の技術を体験し利便性を手にすることができるといえるを生かし、どんどん企業を呼び込み、民間企業の知恵とノウハウを生かしていくことが大切になります。

長谷澤 多くの学生が別の地域から来ています。そんな彼らが卒業後もつくばに関わってくれる、つまり関係人口の卵を、いっぱい育ててくれることはとても重要なことに思えます。せっかく縁があってこのまちに関わってくれた人たちです。どうしたらこのまちの未来への興味や関心を持ち続けてもらえるのか。そんな取り組みを通じて、未来のつくばに期待し、関わり続けてくれる人たちが増えていくといいですね。

沼尻 こう考えます。高速道路で2時間以内で行けるそこには、およそ4000万人、全国のおよそ30%の人口が集中する大消費地です。加えて上海、台湾、韓国、ウラジオストクなど、茨城空港や成田空港から3時間以内で行けるところには2億人強。2億人で発想するのか、つくば市25万人で発想するのかでは、スケールがまるで違ってきます。マーケティングの上でも非常に大事なことです。つくばが本当の意味での国際都市に発展できるポテンシャルはじつはとても高いのです。これから若い方には、つくばや日本のおの発想に留まらず、グローバルな視点でものを考え、行動してもらいたいと思います。

昨年12月に、われわれはSDGs宣言をしました。また、今年1月に「つくばSDGsパートナーズ」に加盟させていただきました。喫緊の課題は、脱炭素です。メインバンクの常陽銀行様にコンサルタントをお願いして、ちょうど今月から当社の脱炭素の測定を始めました。化石燃料から再生可能エネルギーへの切り替えが求められ

ています。つくばの「知の集積」を生かし、産官学連携の持続可能なつくばのまちづくりにこれからも貢献していくことが弊社の命題でもあります。

本日は、お集まりいただきありがとうございます。多くの課題があるのは当然としても、皆さんのポジティブなご意見にとても勇気づけられました。この紙面をお読みになる方にとっても、より明るいつくばの未来へ、たくさんのヒントが得られたのではないのでしょうか。(了)

【つくば市】1987年に谷田部町、大穂町、豊里町、桜村の3町1村が合併して誕生。翌88年に筑波市、2002年に茨城町が編入。(町村名はいずれも当時)。常住人口は252,030人(9月1日現在)。

※【関係人口】地域内にルーツがあったり、勤務や通学、居住経験や滞在など、地域と手と手関係を持つ人の数。少子高齢化対策や地域づくりの担い手として期待されている。



SUZUKI Masaharu
1972年、筑波山のふもと、筑波町に生まれる。田園や芝の中を駆け回った。同時に世界に冠たる科学技術都市というイメージも染みこんでいる。10年ほど地元を離れ、あらためてこのまちの良い面と同時に欠けている面を感じ、県議会議員として現在3期目。筑波山の観光価値に注目し取り組んでいる。

既存資源の再発見、新しい観光価値を生む。
茨城県議会議員 鈴木 将

私たちと一緒に、つくばの未来を描きませんか。



ライフラインを支える物流、その一端を担っている自負と手応えがあります。

さまざまな研修など、成長への後押しが、とにかく頼もしい。

沼尻産業で、私がどれだけ成長できるのか、楽しみです！

女性への配慮が、働きやすさを感じます。

若手や新人が、のびのびと働ける風通しの良さを感じます。

沼尻産業では正社員を募集中です！

私たちは、未来を伴走してくれる“なかま”を全力でサポートします。

あなたの成長は無限です。我々は、いつもあなたに寄り添い、そしてあなたが成長し輝ける場所を準備しています。沼尻産業は、今や物流という枠を超えて、さまざまな社会課題と向き合い、チャレンジをしています。それは、創業からの思い「当社のみならず、地域全体が良くなる事」を目指しているからに他なりません。そうした広い視野で社会課題に取り組むからこそ、幅広い人格形成が可能となり、あなたの成長に繋がると信じています。ご承知の通り、社会課題は一朝一夕で解決出来るものではありません。しかし、我々は10年、30年、50年、100年単位で皆と一緒に取り組めば、解決出来ない問題は無いと考えています。ぜひ、我々と一緒に、サステナブルな地域の未来創造に取り組ましましょう。

■経営理念: 全社員の物心両面の幸福を追求すると同時に、物流の革新を通して社会の発展に貢献する。
■創業: 1962年(昭和37年) ■資本金: 9,720万円
■従業員数: 387名(男性: 233名/女性: 154名) ※2022年9月※グループ会社含む
■倉庫拠点数: 27ヶ所 ■関連会社: ウチダフレイト(株)、(株)つくばオートサービス、NUMAJIRI SINGAPORE PTE LTD



詳しい採用情報は、こちらから▶



沼尻産業株式会社 代表取締役社長 沼尻 年正



沼尻産業株式会社
本社
〒305-0853茨城県つくば市榎戸783-12
Tel.029-837-1501 Fax.029-837-1508
東京支社
〒160-0023東京都新宿区西新宿8-12-1-207
Tel.03-6304-0671 Fax.03-6304-0681
www.numajiri.co.jp
沼尻産業